

協同組合として法人格を得る

- ▶ 資本の少ない個人や零細・中小企業が集まり、
- ▶ 一つの協同組合として法人格を得ることによって
- ▶ 生まれる最大のメリットは、省庁からの許認可
- ▶ を持つことにより信用が付与され、
- ▶ 社会的地位の確保・公益的役割の一端を
- ▶ 担うことができるようになることです。

企業の生き残り策として、

- ▶ 企業の生き残り策として、
- ▶ 規模の縮小化,合理化を進める形態が主流となっている中、
- ▶ 私たち協同組合Mastersは、
- ▶ この最大のメリットを異業種間で全国展開することにより、
- ▶ 時代にマッチした組織形態を整え、
- ▶ 会員の皆様とともにダイナミックにチャレンジできる
- ▶ 舞台づくりへ邁進していきたいと心から願っています。

全国の地域に密着した情報

- ▶ 全国の地域に密着した情報に
- ▶ 組合員の知恵を合わせ、
- ▶ 統合・精査し共有することで、
- ▶ 新しいビジネスのカタチを
- ▶ 創り出してまいります。

協同組合 Masters

- ▶ 協同組合Mastersとは、
- ▶ 「熟練した職人たち」
- ▶ という意味を込めて
- ▶ 名付けました。

「ヒト・モノ・コト」

- ▶ 強く護りたいと願う
- ▶ 「ヒト・モノ・コト」のある
- ▶ 人間の「志（こころざし）」が
- ▶ 集まると、
- ▶ 時として
- ▶ 爆発的な力を
- ▶ 発揮します。

「夢」は現実のものとなる。

- ▶ そんな、
- ▶ 一人ひとりの力を
- ▶ 組み合わせれば
- ▶ 「夢」は夢でなくなり、
- ▶ 現実のものとなります。

一人ひとりの力を組み合わせれば
「夢」は夢でなくなり、現実のものとなる

- ▶ これこそが
- ▶ 協同組合Mastersの
- ▶ 基本理念
- ▶ でもあります。

日本の協同組合の原型つくった二宮尊徳

▶ 協同組合Mastersは2020年 3月27日、
満14歳になります。

▶ ところで今回、基本に立ち返って
「協同組合」についてひも解き、
再確認しておきたいと思います。

日本の協同組合の原型をつくったのは 二宮尊徳であるとの説もあります。

- ▶ 尊徳の農業改革手法は「天保の改革」の一つとされますが、唯一の成功例ともいわれます。
- ▶ それは、江戸時代の農村共同体から先祖株組合を結成し「質素・儉約」を基本に、
- ▶ 得られた「余剰」が生まれると「推譲（財貨を自分のところで消費するのではなく、仲間のところへ支出）」し、経済と民衆の生活の安定を目指しました。

「協同」の思想

- しかし、それは一方的に与える恩恵ではなく、
自らに帰ってくるものであり、
「風呂桶の中の湯を手で押すと、必ず自分の方へ戻ってくる」
と尊徳が説いた有名な例え話は、
まさしく「協同」の思想だといわれています。
- ▶ 尊徳の精神に学び、改めてかみ締め、常に心に留めて置きたい、
 - ▶ 素晴らしい考え方だと思います。



Thank You